

スロープの選び方

① スロープの種類を選ぶ。

レールタイプと1枚板タイプの2種類があります。



1枚板タイプ

安定感があり、介助者が走行面に乗れるので、介助がラク。車いすだけでなく、電動カートなどにも対応。



レールタイプ

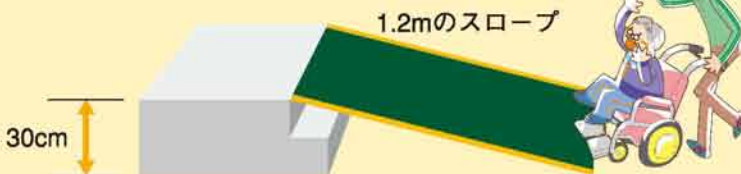
設置しやすく、運びやすい。長いものに対応しているため、高い段差にも利用可能。1枚板タイプに比べると、設置場所の幅が狭いところでも使え、低価格。

② スロープの長さを選ぶ。

目的や環境に合わせて選びましょう。

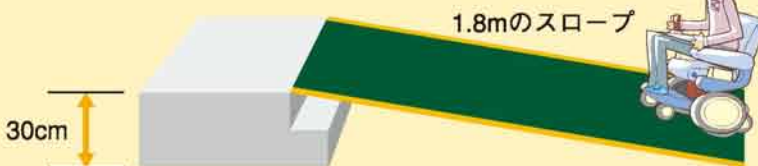
段差の4倍の長さのスロープ (段差30cmの場合なら、1.2m)

かなりの急勾配だが、スロープの長さが2mぐらいまでなら介助者が勢いを付けて車いすを押すことで使用可能。



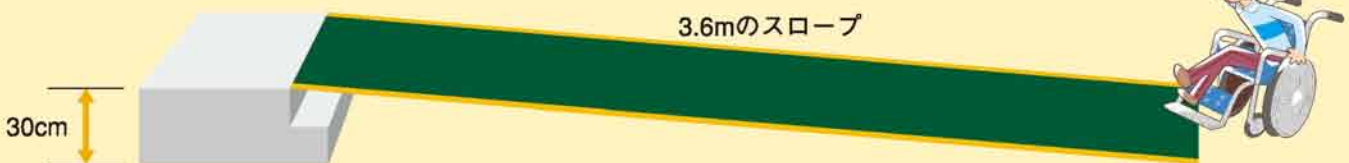
段差の6倍の長さのスロープ (段差30cmの場合なら、1.8m)

介助者がラクに車いすを押して昇降できる角度になる。もちろん、電動カートによる自走も可能。



段差の12倍の長さのスロープ (段差30cmの場合なら、3.6m)

車いすでほぼ自走できる角度となる。下りるときも加速が付きにくいので、余裕を持って走行できる。



ご注意！スロープの長さについて。

これらのスロープの長さは、一般的な目安です。実際には、次のような条件に左右されますので、福祉用具相談専門員にご相談ください。

- ・介助者の体力
- ・利用者の体力(自走の場合)
- ・車いすおよび電動カートの車種

おすすめ！ ゆうえるでは、介護保険の住宅改修としてさまざまな段差解消工事を行っております。くわしくはお問い合わせください。



室内に設置した車いす用のスロープ



玄関に設置した踏み台式のスロープ (必要に応じて踏み台の中に格納されたスロープを引き出せます)

